

コンサートレポート

◆ アンサンブル シーガル横浜 定期演奏会

アンサンブルシーガル横浜は5月19日に横浜市磯子区民文化センター（杉田劇場）に於いて第8回定期演奏会を開催しました。当日は雨予報でしたが早めにあがり、310席の会場も満席に近いお客様で、熱がこもった演奏をする事が出来ました。プログラムは1部（日本の歌謡曲・演歌・民謡）2部（テレビ番組テーマ曲）3部（クラシック）4部（外国のポピュラー、本日最後の曲）と4部構成で曲数が多かったかな？と感じましたが、本番ではアツという間の時間でした。演奏会に来て下さったお客様はメンバーからのお誘いが多かったようですが、チラシを見た、又ホームページ、新聞に掲載をお願いした事から新聞を見て来て下さった方もかなりいらっしゃいました。お客様の年代は、やはり60代から80代のお客様が多く、シニア世代が頑張っていて刺激をもらったという声は嬉しかったです。次回定期演奏会は設立20周年記念演奏会として開催したいと思っています。 龍山英子



お客様はメンバーからのお誘いが多かったようですが、チラシを見た、又ホームページ、新聞に掲載をお願いした事から新聞を見て来て下さった方もかなりいらっしゃいました。お客様の年代は、やはり60代から80代のお客様が多く、シニア世代が頑張っていて刺激をもらったという声は嬉しかったです。次回定期演奏会は設立20周年記念演奏会として開催したいと思っています。 龍山英子

◆ 市川シニアアンサンブル 第4回定期演奏会

去る5月29日（火）市川市文化会館小ホールで市川の第4回定期演奏会が催され伺った。同団は私が（平成21年10月に）発足して5年5ヶ月お世話になった懐かしい楽団である。ステージで熱演する団員の約半数が入れかわっていたが、Vn奏者がふえたことは嬉しかった。客席は満席で、



過去3回は8割程度だったので、鎌田代表以下みんなで集客に努めたのだらう（ブラボー！）プログラムの構成は第1部がクラシック、第2部が、それ以外のポップス、日本の歌などであった。第1部は御多分にもれず、固さがあった。クラシックは演奏が難しいので、間違わずにひくことに精一杯で、表情ゆたかにして聴く人を感動させるのは難しいのだ。最後の「花のワルツ」からようやく固さがほぐれ、演奏が面白くなってきた。第2部は第1曲の「愛の賛歌」のオープニングから舞台登場をピアノのソロに始まり楽器グループ毎にずらせるなど演出に工夫をこらし、客席も楽しいムードで盛り上がってきた。メドレーを含めて10曲演奏されたが、カントリーメドレー、ガーシュインメドレー、少年時代などはSEでは目新たらしかった。私の独断では「時計」（五十嵐淳編曲）がよかった。

この定期演奏会を最後に同団を引退される大野悦男先生には、発足以来の指揮者、笹森先生の急逝の後を、色々やりにくい事もあったと思うが、よく頑張られた。私からもお礼を申し上げたい。（全シ連 岡村）

◆ 大阪ベルタ・第11回定演への参加報告

音楽仲間ベルタの今年の定演は去る5月27日（日）大阪市阿倍野学習センターで約120名のおなじみのお客様を迎えて催された。当団は管楽器奏者が多いこともあって楽しい選曲で関東でのSE活動と少し違ったサウンドを楽しむことが出来、打ち上げの楽しさもあって、私には大変待ち遠しいイベントになっており、今回で5回目の客演である。前日、つくばの練習を早退し夜行で大阪に入る。翌朝のウォーキングは四天王寺の境内。まずお寺なのに門が山寺ではなく鳥居なのに驚く。敷地が広く建物が30以上もあったと言う。そのためか大阪夏の陣では徳川方の本陣となっている。改めて聖徳太子のすごさに感服。大阪はよく見ると興味深い史跡が多い。

ベルタに到着すると皆に歓迎された。午前中ゲネプロ。今年はメンバーにバリトンサックスも加わり、サウンドも一段と立体的で柔らかくなっていった。司会は2人の女性がおしゃべりしながら進行、場内を大いにわかせた。全体合奏は「ハロドーリー」や「小さな花」など私には新鮮で楽しかった。第2部の小アンサンブルは例年通りサックス、サックス以外の木管楽器、リード楽器とキーボード、金管楽器など4パートに分かれて演奏。各々、音がやわらかく年季が入っている。特に女性の金管奏者やピブラホン等による「リング追分」は編曲も演奏もすばらしかった。私のヴァイオリンについては昨年アンケートでのVnの音が小さいとの声が気になりサイレントVn（取手SE宮崎代表より拝借）を使用したが、代表の林さんや他の団員に「よく聴こえた」と言われホットした。打ち



上げは何時もの天王寺のピアホール。ビールもうまく盛り上がった。ホロ酔い気分で大阪より夜行に乗り込んだ。若山先生はじめ、皆様お世話様になりました。6月の大地震、皆様ご無事で何よりでした。（全シ連 岡村）